

SP5000 シリーズ

オープンボックスリファレンスマニュアル

SP5000-OPENREF-MM01-JA-PDF.05
02/2026

本書の情報には本書に記載された製品についての一般的説明および性能の技術特性が含まれません。本書は、お客様の特定の用途に対する本製品の適合性または信頼性を確約するために作成されたものではありません。お客様またはインテグレーター様は自らの責任で、関連する特定の用途またはその使用に関する本製品のリスク分析、評価、および試験を完全かつ適切に行なってください。シュナイダーエレクトリック社あるいは系列会社（以下、シュナイダーエレクトリックと称します）は、本書に記載された情報の誤用に対して一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本書の内容について改善点や修正点の提案がある場合、また何らかの誤りを発見した場合には、弊社までご連絡ください。

媒体の如何を問わず本書の内容の一部およびすべてを、シュナイダーエレクトリックの書面の明示による許可なしに、個人または非商業的使用以外の目的で複製することを禁じます。また、本書およびその内容へリンクを張ることを禁じます。シュナイダーエレクトリックは、使用者自身の責任において「現状有姿」のまま閲覧する非独占的権利を除き、本書およびその内容の個人または非商業的使用に対して、いかなる権利またはライセンスを許諾しません。その他著作権も所有しており、無断複写、転載を禁じます。

本製品を設置して使用する際には、関連する州、地域、地区の安全規定をすべて順守する必要があります。安全のため、また、記録されたシステムデータの適合性を確保するため、部品の修理は製造業者にお任せください。

装置を技術的な安全要件がある用途に使用する場合、関連する指示に従ってください。

シュナイダーエレクトリックのハードウェア製品には必ず、シュナイダーエレクトリック製のソフトウェアまたは承認されたソフトウェアをご使用ください。この指示に従わない場合、人的損害、物的損害、また不適切な動作が生じる可能性があります。

この情報に従わない場合、人的損害や装置の損傷を招くおそれがあります。

Copyright © 2026 Schneider Electric Japan Holdings Ltd. All Rights Reserved.

目次



	安全に関する使用上の注意	5
	本書について	7
第 1 章	概要	9
	主な機能	10
	オペレーティングシステムおよび主なアプリケーション	11
	開発の流れ	13
第 2 章	ランチャー	15
	ランチャーとは	16
	標準ウィンドウ	18
	カスタムウィンドウ	19
	スタートアップウィンドウ	21
	設定ウィンドウ	23
第 3 章	環境設定	27
	キャリブレーション設定	28
	バックライト輝度設定	29
	フロント USB 設定	30
	デュアルディスプレイ設定	31
	UART 設定 (通信設定)	32
	システムバージョン情報	33
	タスク切り替え設定	34
	その他の環境設定	37
	その他制限事項	38
第 4 章	システム動作	41
	Power	42
	Eject	43
	Write Filter	44
	HORM	45
	Shell	47

安全に関する使用上の注意



重要な情報

お断り

本書をよくお読みいただき、装置の正しい取り扱いと機能を十分ご理解いただいた上で、設置、操作、保守を行ってください。本書および装置には以下の表示が使われています。これらは潜在的な危険を警告したり、手順を明確化あるいは簡素化する情報について注意を呼びかけるものです。



この記号が「危険」または「警告」安全ラベルに追加されると、電気的な危険が存在し、指示に従わないと人身傷害の危険があることを示します。



安全警告記号です。人的傷害の危険性があることを警告します。この記号の後に記載された安全に関する情報に従って、人的傷害や死亡の危険性を回避してください。

⚠ 危険

危険は、危険が生じる可能性のある状況を示します。回避しないと、死亡や重傷を招きます。

⚠ 警告

警告は、危険が生じる可能性のある状況を示します。回避しないと、死亡や重傷を招くおそれがあります。

⚠ 注意

注意は、危険が生じる可能性のある状況を示します。回避しないと、軽傷を招くおそれがあります。

注記

この表示は、指示に従わないと物的損害を負う可能性があることを示します。

以下の点に注意してください。

電気装置の設置、操作、サービス、および保守は有資格者のみが行うことができます。定められた範囲外の使用によって生じた結果については、シュナイダーエレクトリックは一切の責任を負いかねます。

有資格者とは、電気装置の構造および操作ならびに設置に関する技術と知識を持ち、関連する危険性を認識して回避するための安全トレーニングを受けた人を指します。

本書について



概要

本書の適用範囲

このマニュアルでは、SP5000 シリーズ オープンボックス (これより「本製品」と称します) の使用方法を説明します。

有効性に関する注意

本書は本製品を対象として書かれています。

本書で説明する装置の技術的特性については、<https://www.proface.co.jp> でオンラインでもご確認いただけます。

本書に記載された特性は、明確性と正確性を確保するため継続的に更新されています。ご使用のパソコン上のマニュアルとオンラインで入手した情報に違いがある場合、オンライン情報の方を参照してください。

登録商標

Microsoft、Windows、Internet Explorer、Office、Excel、Aero は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel は、Intel Corporation の登録商標です。

SkyPDF は、株式会社スカイコム の登録商標です。

本書に記載の製品名は、それぞれの権利者の登録商標である場合があります。

関連マニュアル

ソフトウェアマニュアルなど、本製品に関連するマニュアルは、弊社ウェブサイト (<https://www.pro-face.com/trans/ja/manual/1085.html>) からダウンロードできます。

第 1 章

概要

概要

本章では、本製品に関わるソフトウェアの概要と開発の流れについて説明します。

本章について

本章には次のセクションが含まれています。

項目	参照ページ
主な機能	10
オペレーティングシステムおよび主なアプリケーション	11
開発の流れ	13

主な機能

本製品には、以下の特長があります。

マルチランゲージ対応

本製品のオペレーティングシステムは、英語（出荷時設定）、日本語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語に対応しています。必要に応じてオペレーティングシステム言語を変更してください（37 ページ参照）。

また、上記言語以外にも追加でインストールできる言語があります。追加言語に関しては、弊社ウェブサイト（<https://www.pro-face.com/trans/ja/manual/1001.html>）をご覧ください。

ライトフィルター機能

システム用 CFast カードを書き込みアクセスから保護するための機能です（44 ページ参照）。

HORM (Hibernate Once/Resume Many) 機能

電源断実行後も、電源断前と同じシステム状態で復帰させることで、起動時間を短縮させるための機能です（45 ページ参照）。

ランチャー

あらかじめ登録しておいたファイルやプログラム、各種設定をアイコンで一覧表示し、タッチ操作によって簡単に起動できるようにするユーティリティです（16 ページ参照）。

パスワード設定

パスワードを登録し、閲覧、操作可能者を制限することで、セキュリティを強化します。ランチャーのページごとにパスワードの要否を設定できます（23 ページ参照）。

シェルの切り替え

エクスプローラーシェルからカスタムシェルへ切り替えることにより、各種設定の変更やアプリケーションの複製などを防ぎ、セキュリティを強化することができます（47 ページ参照）。

オペレーティングシステムおよび主なアプリケーション

ここでは、本製品のシステム使用について説明します。

ハードウェア仕様

	SP-5B40	SP-5B41
オペレーティングシステム	Windows [®] Embedded Standard 7 with Service Pack 1 ^{*1}	
CPU	Intel Atom E6x0 1.3 GHz (Single core/Dual thread)	Intel Atom Processor E3825 1.33 GHz (Dual core/Dual thread)
L2 キャッシュメモリー	512 KB	1 MB
メインメモリー	DDR2 SDRAM 2 GB	DDR3L SDRAM 2 GB
ビデオメモリー	最大 64 MB (UMA main memory)	最大 256 MB (UMA main memory)

^{*1} Windows[®] Update は工場出荷時は無効となっています。更新が必要な場合は、Windows[®] Update を有効にしてください。

搭載アプリケーション

本製品には、以下のアプリケーションが搭載されています。

- HMI ランタイム ^{*1}
- Windows[®] Internet Explorer[®]
- Windows[®] Media Player
- Microsoft[®] .NET Framework 4
- Microsoft[®] Office[®] Excel[®] Viewer 2003
- Microsoft[®] Office[®] Word Viewer 2003
- SkyPDF[®] Viewer

^{*1} 画面作成ソフトウェアで作成した画面データを本製品上で動作させるシュナイダーエレクトリック製アプリケーション。

専用ユーティリティ

以下は、シュナイダーエレクトリック製のユーティリティです。

ユーティリティ	内容	参照先
ランチャー	本製品に必要なプログラムがひとつにまとまったアプリケーションです。お好みのプログラムを登録することもできます。	第 2 章 ランチャー (15 ページ参照)
キャリブレーション設定	タッチ位置の補正を行います。	第 3 章 環境設定 (27 ページ参照)
バックライト輝度設定	ディスプレイモジュールの輝度調整を行います。	
フロント USB 設定	フロント USB の有効 / 無効を設定します。	
デュアルディスプレイ設定 ^{*1}	デュアルディスプレイの設定を行います。	
UART 設定 (通信設定)	シリアルインターフェイスの通信設定を行います。	
システムバージョン情報	製品のファームウェアや BIOS バージョン、OS バージョンが表示されます。	
タスク切り替え設定	現在稼働中のタスク一覧が表示されます。	

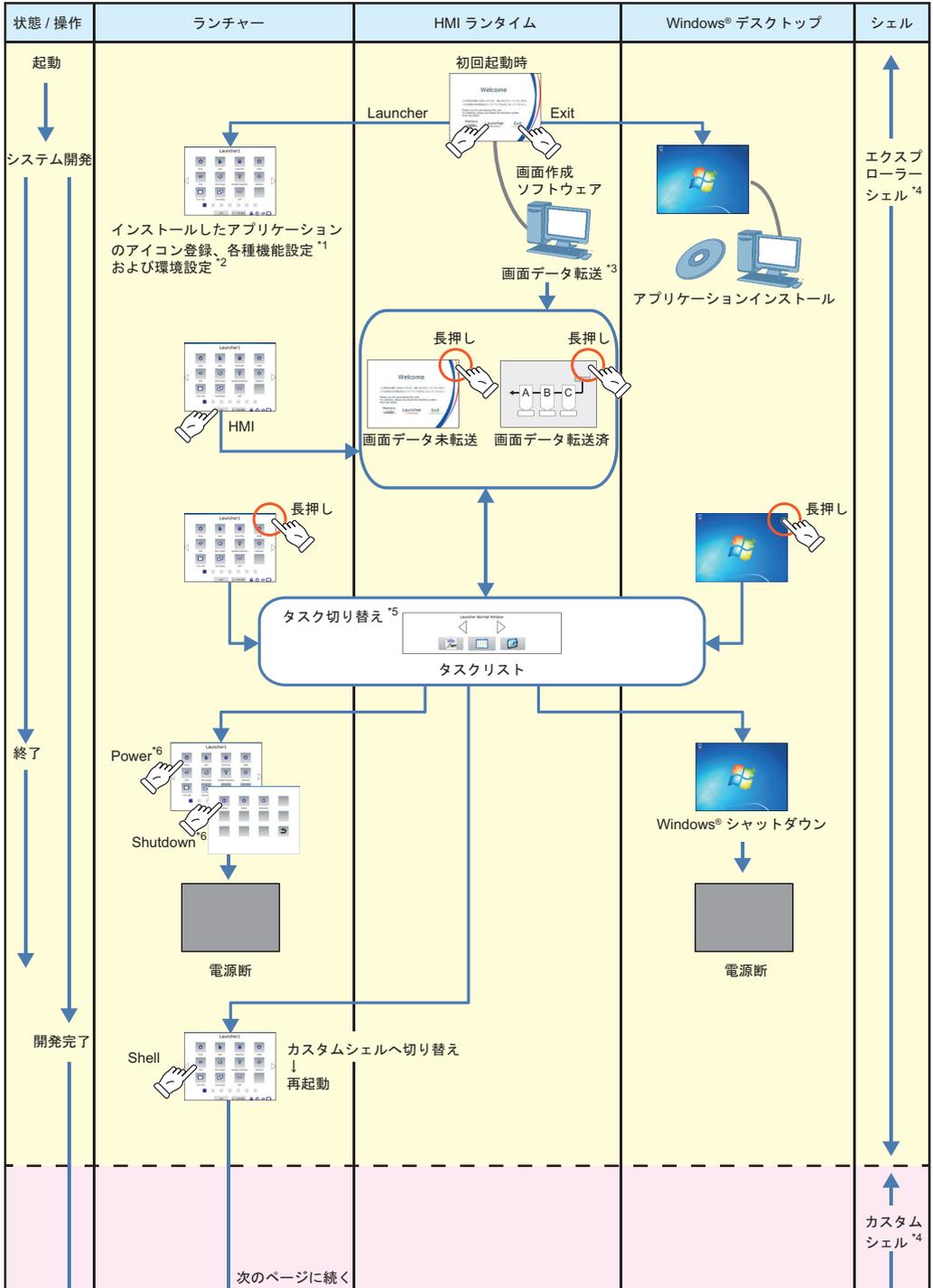
^{*1} SP-5B40 のみランチャー上に表示されます。

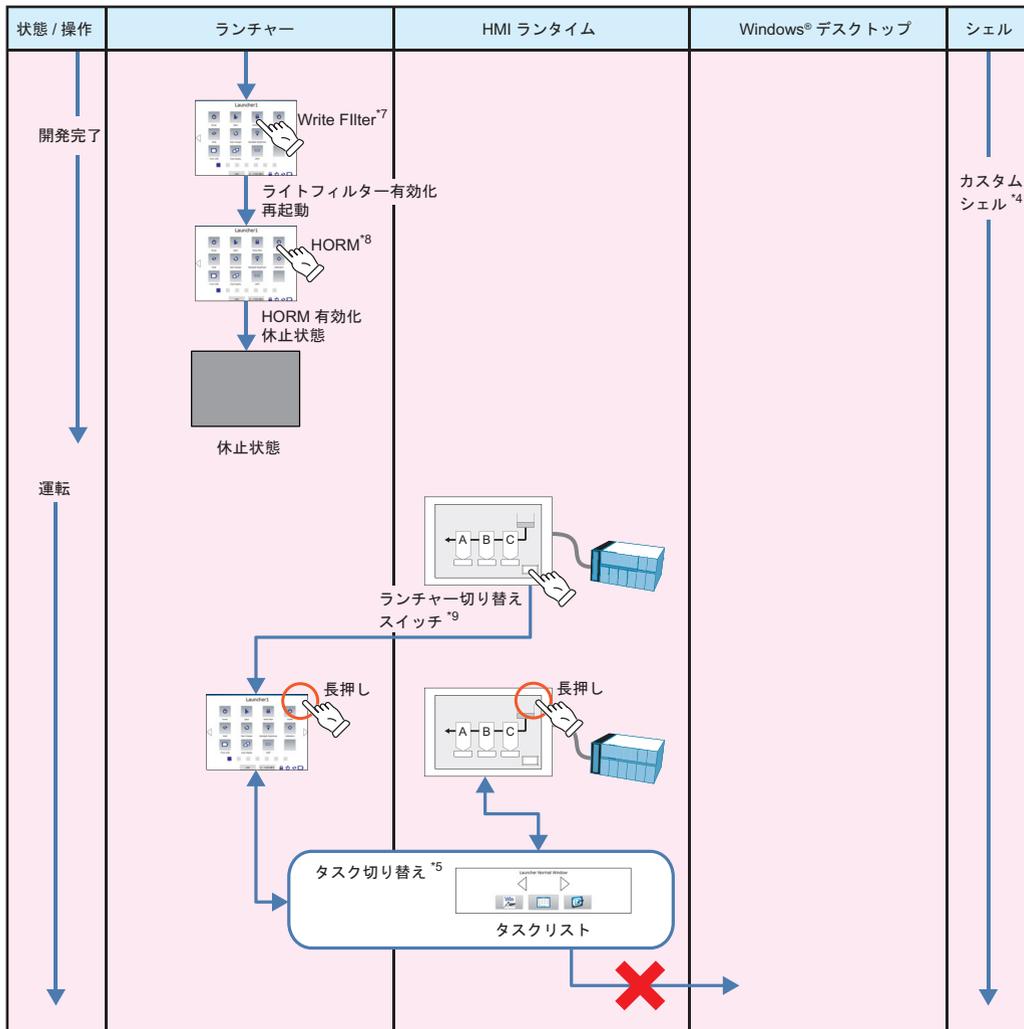
ユーティリティ	内容	参照先
Power	「シャットダウン」「再起動」「休止状態」のいずれかを実行します。	第4章 システム動作 (41 ページ参照)
Eject	取り外し可能な機器の取り外しを行います。	
Write Filter	ライトフィルターの有効/無効を設定します。	
HORM	HORM (Hibernate Once/Resume Many) の有効/無効を設定します。	
Shell	Windows® デスクトップの表示/非表示を設定します。	

開発の流れ

本セクションでは、システム開発の流れについて説明します。

注記：工場出荷時のオペレーティングシステム言語は英語です。必要に応じてオペレーティングシステム言語を変更してください（37 ページ参照）。





*1 第 2 章 ランチャー (15 ページ参照)

*2 第 3 章 環境設定 (27 ページ参照)

*3 ご使用の画面作成ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

*4 第 4 章 システム動作 Shell (47 ページ参照)

*5 第 3 章 環境設定 タスク切り替え設定 (34 ページ参照)

*6 第 4 章 システム動作 Power (42 ページ参照)

*7 第 4 章 システム動作 Write Filter (44 ページ参照)

*8 第 4 章 システム動作 HORM (45 ページ参照)

*9 画面作成ソフトウェアでランチャーへの切り替えスイッチを作成することもできます。ご使用の画面作成ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

注記：システムを安全にご使用いただくためには、ライトフィルター、HORM、およびカスタムシェルを常に有効な状態でご使用されることをおすすめします。

第 2 章

ランチャー

概要

本章では、ランチャーの機能について説明します。

本章について

本章には次のセクションが含まれています。

項目	参照ページ
ランチャーとは	16
標準ウィンドウ	18
カスタムウィンドウ	19
スタートアップウィンドウ	21
設定ウィンドウ	23

ランチャーとは

概要

ランチャーとは、あらかじめ登録しておいたファイルやプログラム、各種設定をアイコンで一覧表示し、タッチ操作によって簡単に起動できるようにするユーティリティです。

ランチャーは通常は標準モードで使用しますが、ランチャーの画面構成の変更や、スタートアップおよびパスワードの設定は、カスタムモードへ切り替えて行います。

以下に各モードについて説明します。

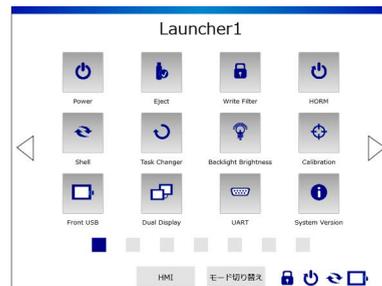
標準モード

通常操作を行うモードです。標準ウィンドウが表示されます。

モード切り替えボタンでカスタムモードに切り替わります。

標準ウィンドウ：

登録されたファイルやプログラムをアイコンのタッチで起動するウィンドウです。



カスタムモード

ランチャーの画面構成の変更や、スタートアップおよびパスワードの設定を行うモードです。

本モードは以下の3つのウィンドウで構成されています。終了ボタンで標準モードに戻ります。

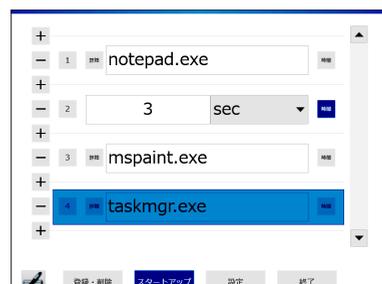
カスタムウィンドウ：

プログラムの登録 / 削除 / 移動や、ページのロックを設定するウィンドウです。



スタートアップウィンドウ：

オペレーティングシステム起動時に自動的に起動させるプログラムと起動順を設定するウィンドウです。



設定ウィンドウ：

モードの切り替えやページを切り替える際のパスワードや、ランチャーのページ数、およびランチャーのアニメーション表示を設定するウィンドウです。

モード切り替えパスワード	パスワード	有効時間
ページ切り替えパスワード	ON	10 分
ランチャーのページ数	セキュリティレベル	
アニメーション	低	パスワードの削除
	現在のパスワード	
	•	
	新しいパスワード	

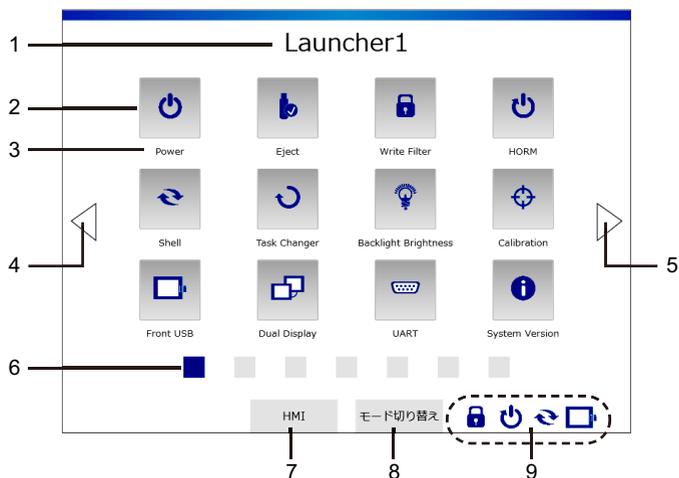
	新しいパスワードの再入力	

登録・削除 スタートアップ 設定 終了

標準ウィンドウ

標準ウィンドウの画面構成

画面右上の長押しでタスクリストウィンドウを表示し、**Launcher** アイコンをタッチしてランチャーを表示させます。

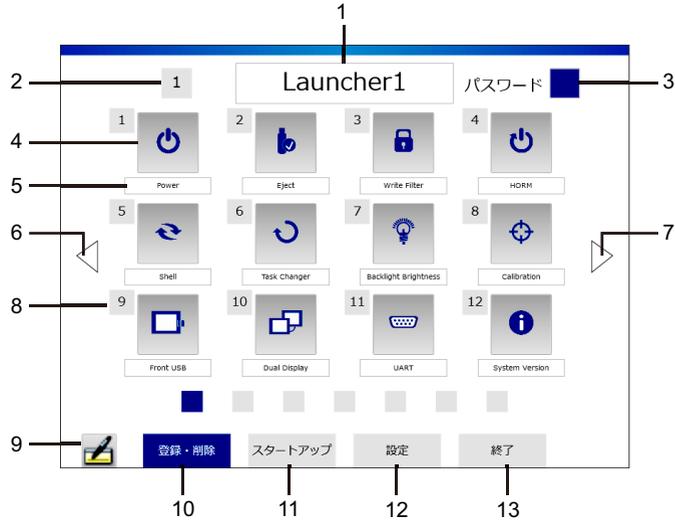


番号	名称	内容
1	タイトル	表示されているページのタイトルです。
2	プログラムボタン	プログラムのアイコンです。
3	プログラム名	プログラムの名称です。
4	前へボタン	前ページを表示します。
5	次へボタン	次ページを表示します。
6	ページ番号ボタン	現在表示されているページを表示します。また、選択したページへ切り替えます。
7	HMI ボタン	HMI ランタイムを表示します。
8	モード切り替えボタン	カスタムモードに切り替えます。
9	システムの状態表示	以下の機能の有効 / 無効状態を示します。 Write Filter、HORM、Shell、Front USB。

カスタムウィンドウ

カスタムウィンドウの画面構成

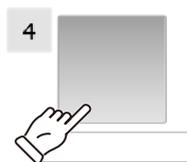
ランチャーの標準ウィンドウ上の**モード切り替えボタン**をタッチして切り替えます。



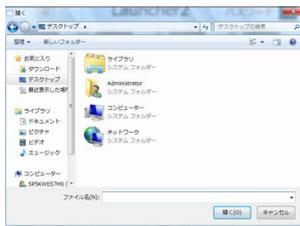
番号	名称	内容
1	タイトルテキストボックス	ページタイトルを入力します。
2	ページ選択ボタン	ページ全体を別ページに移動させる際に選択します。
3	パスワード設定ボタン	ページロックの有無を設定します。 ページ切り替えパスワードが未設定の場合は、 パスワード設定ボタン をタッチするとパスワード設定画面が表示されます (23 ページ参照)。
4	プログラムボタン	プログラムを登録/削除します (20 ページ参照)。
5	プログラム名テキストボックス	プログラム名を入力します。
6	前へボタン	前ページを表示します。
7	次へボタン	次ページを表示します。
8	プログラム選択ボタン	プログラムを別の位置に移動させる際に選択します (20 ページ参照)。
9	キーボードボタン	キーボードを表示します。
10	登録・削除ボタン	カスタムウィンドウを表示します (19 ページ参照)。
11	スタートアップボタン	スタートアップウィンドウを表示します (21 ページ参照)。
12	設定ボタン	設定ウィンドウを表示します。(23 ページ参照)。
13	終了ボタン	標準ウィンドウに戻ります。

プログラムの登録

空きボタンをタッチ



プログラムを選択



プログラム名を入力



注記：プログラム選択後以下の画面が出てきた場合は、そのプログラムを起動させる際は常に最前面で起動させるかどうかの選択ができます。

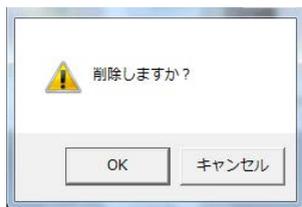


プログラムの削除

ボタンをタッチ



OK ボタンで削除



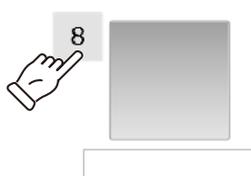
注記：工場出荷時にあらかじめ登録されているプログラムは削除できません。

プログラムの移動

プログラム選択ボタンを
タッチ



移動先のプログラム選択ボ
タンをタッチ

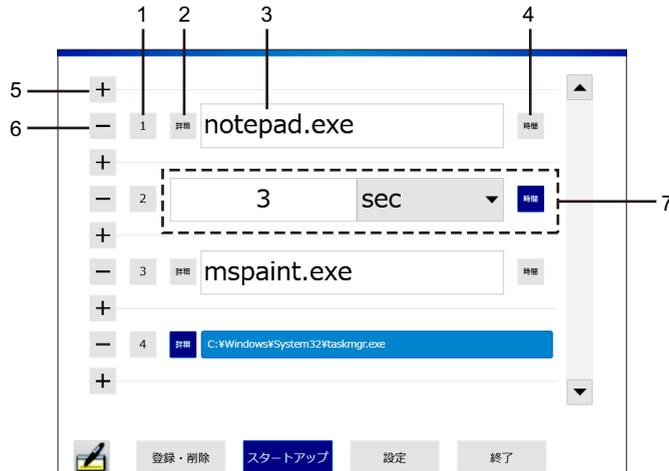


注記：移動先にすでにプログラムが登録されている場合は、移動元と移動先のプログラムの位置が入れ替わります。

スタートアップウィンドウ

スタートアップ設定

スタートアップとは、指定されたプログラムをオペレーティングシステム起動時に自動的に起動させる機能です。

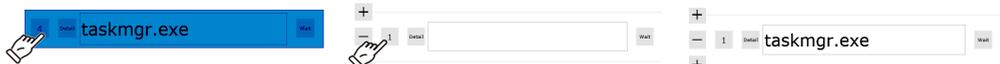


番号	名称	内容
1	番号ボタン	プログラムの起動順を移動させる際に選択します。
2	詳細ボタン	選択されたプログラムの場所 (パス) を表示します。
3	プログラム設定ボックス	タッチするとプログラムが選択できます。選択後、プログラム名が表示されます。 時間 ボタン有効時には待機時間設定ボックスになります。
4	時間ボタン	プログラム設定ボックスと待機時間設定ボックスを切り替えます。
5	追加ボタン	プログラム / 待機時間設定ボックスを追加します。
6	削除ボタン	プログラム / 待機時間設定ボックスを削除します。
7	待機時間設定ボックス	前のプログラムが起動してから次のプログラムが起動するまでの待機時間を設定します。[sec][msec] の選択ができます。 時間 ボタン無効時にはプログラム設定ボックスになります。

起動順の移動

番号ボタンをタッチ

移動先ボックスの番号ボタンをタッチ 移動完了

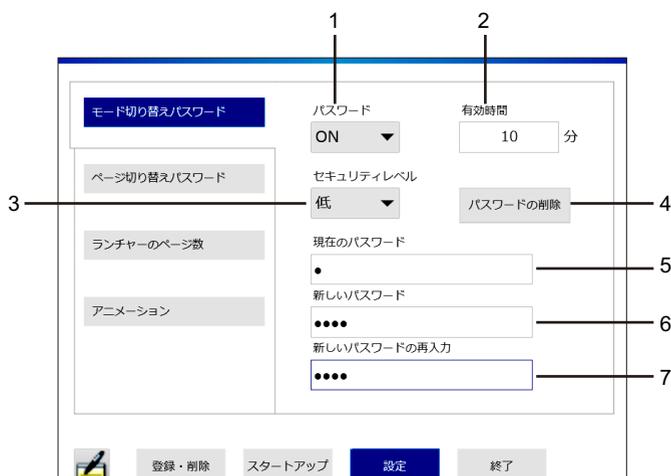


注記： 移動先にすでにプログラム / 待機時間が登録されている場合は、移動元と移動先のプログラム / 待機時間の位置が入れ替わります。

設定ウィンドウ

モード切り替えパスワード設定

ランチャーの標準モードからカスタムモードに切り替える際に入力するパスワードを設定します。

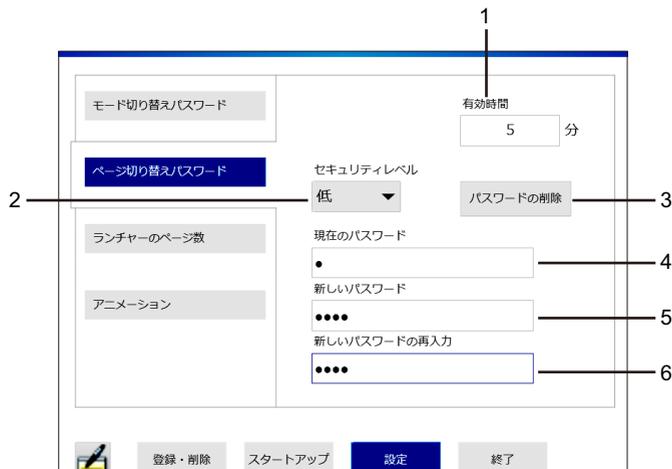


番号	名称	内容
1	パスワード ON/OFF	パスワードの有効 / 無効を選択します。
2	有効時間	パスワード入力後、ここで入力した時間まで画面操作を行わなかった場合、自動的に標準ウィンドウに戻ります。
3	セキュリティレベル	高 / 低では、使用文字種類数および文字数の制限が異なります。 高の場合：下記の使用可能な文字から、4 種類以上 8 文字以上の文字 低の場合：下記の使用可能な文字から、1 種類以上 1 文字以上の文字 使用可能文字種類 英小文字：a ~ z 英大文字：A ~ Z 数字：0 ~ 9 記号：!"#\$%&'()*+,-.:/;<=>?@[\\]^_`{ }~/\
4	パスワード削除ボタン	パスワードを削除します。
5	現在のパスワード	現在のパスワードを入力します。パスワード設定済みの場合のみ、表示されるボックスです。
6	新しいパスワード	新しいパスワードを入力します。
7	新しいパスワードの再入力	新しいパスワードを再入力します。

注記：パスワードを忘れると、カスタムモードへの切り替えができず、各種設定変更ができなくなります。パスワードは大切に保管してください。

ページ切り替えパスワード設定

標準ウィンドウのロックされているページに切り替える際に入力するパスワードを設定します。



番号	名称	内容
1	有効時間	ロックされているページを開いた後、ここで入力した時間まで画面操作を行わなかった場合、再度ページがロックされます。
2	セキュリティレベル	高 / 低では、使用文字種類数および文字数の制限が異なります。 高の場合：下記の使用可能な文字から、4種類以上8文字以上の文字 低の場合：下記の使用可能な文字から、1種類以上1文字以上の文字 使用可能文字種類 英小文字：a～z 英大文字：A～Z 数字：0～9 記号：!"#\$%&'()*+,-.:;<=>?@[^_`{ }~/\
3	パスワード削除ボタン	パスワードを削除します。
4	現在のパスワード	現在のパスワードを入力します。パスワード設定済みの場合のみ、表示されるボックスです。
5	新しいパスワード	新しいパスワードを入力します。
6	新しいパスワードの再入力	新しいパスワードを再入力します。

注記：

- ページをロックするには、カスタムウィンドウで各ページのパスワードボタンをタッチします（19 ページ参照）。
- パスワードを忘れると、ロックされているページを表示させることができなくなります。パスワードは大切に保管してください。

ランチャーページ数設定

ランチャーのページ数を設定します。最大7ページまで設定できます。

The screenshot shows a configuration interface for the Launcher Page Number. On the left side, there are four stacked settings boxes: 'モード切り替えパスワード' (Mode Switch Password), 'ページ切り替えパスワード' (Page Switch Password), 'ランチャーのページ数' (Launcher Page Number), and 'アニメーション' (Animation). The 'ランチャーのページ数' box is highlighted in blue. To the right of this box, the current value '7' is displayed in a dropdown menu, with the label 'ランチャーのページ数' above it. At the bottom of the screen, there is a navigation bar with five buttons: a pencil icon, '登録・削除' (Register/Delete), 'スタートアップ' (Startup), '設定' (Settings), and '終了' (End). The '設定' button is highlighted in blue.

アニメーション設定

ランチャーのアニメーション表示の有効/無効を切り替えます。

The screenshot shows a configuration interface for the Animation setting. On the left side, there are four stacked settings boxes: 'モード切り替えパスワード' (Mode Switch Password), 'ページ切り替えパスワード' (Page Switch Password), 'ランチャーのページ数' (Launcher Page Number), and 'アニメーション' (Animation). The 'アニメーション' box is highlighted in blue. To the right of this box, the current value '無効' (Disabled) is displayed in a dropdown menu, with the label '操作時のアニメーション' (Animation during operation) above it. At the bottom of the screen, there is a navigation bar with five buttons: a pencil icon, '登録・削除' (Register/Delete), 'スタートアップ' (Startup), '設定' (Settings), and '終了' (End). The '設定' button is highlighted in blue.

第 3 章

環境設定

概要

本章では、本製品の環境設定について説明します。

本章について

本章には次の項目が含まれています。

項目	参照ページ
キャリブレーション設定	28
バックライト輝度設定	29
フロント USB 設定	30
デュアルディスプレイ設定	31
UART 設定 (通信設定)	32
システムバージョン情報	33
タスク切り替え設定	34
その他の環境設定	37
その他制限事項	38

キャリブレーション設定

概要

ディスプレイのキャリブレーション設定 (タッチパネル補正) を行います。
ランチャーまたはコントロールパネルから設置します。

ランチャーからの設定

ランチャーの **Calibration** アイコンをタッチし、画面の指示に従ってキャリブレーションを行います。



コントロールパネルからの設定

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → Display Module Calibration

注記 : コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → Tablet PC 設定の [調整] は使用しないでください。タッチパネルの補正が正しく行われません。

バックライト輝度設定

概要

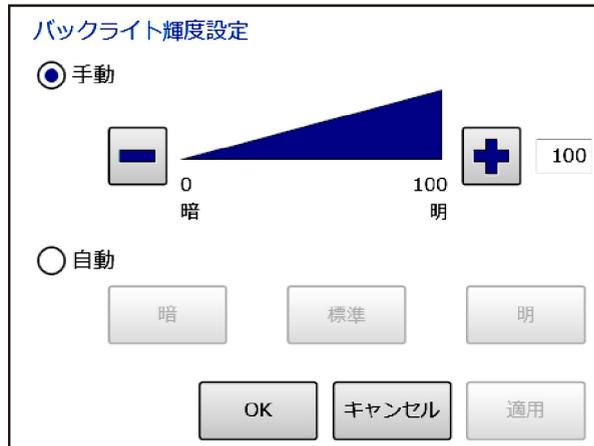
バックライト輝度を調整します。

本設定はランチャーまたはコントロールパネルから実行することができます。

注記： ボックスモジュール用 DC 電源アダプターを装着している場合、本設定は無効です。

ランチャーからの設定

ランチャーの **Backlight Brightness** アイコンをタッチし、輝度を調整します。



Manual: 固定の輝度設定になります。0 ～ 100 で設定します。

Auto: 輝度センサーにより自動的に輝度を調整します。明るさレベルを選択できます。

コントロールパネルからの設定

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → **Backlight Brightness Setting**

注記： 以下の場所からのバックライト輝度の変更はできません。

- コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → 電源オプション → 画面の明るさ
- コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → 電源オプション → ディスプレイの電源を切る時間の指定 → プランの明るさを調整

フロント USB 設定

概要

フロント USB の有効 / 無効を切り替えます。

本設定はランチャーまたはコントロールパネルから実行することができます。

注記：フロント USB が搭載されていない機種には、本設定は無効です。

ランチャーからの設定

ランチャーの **Front USB** アイコンをタッチし、有効 / 無効を切り替えます。



コントロールパネルからの設定

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → Front USB Setting

デュアルディスプレイ設定

概要

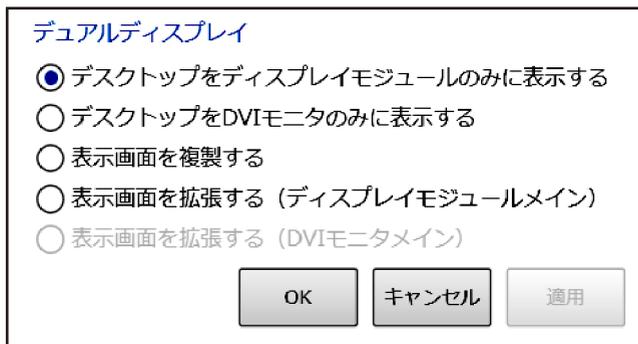
デュアルディスプレイの表示方法を設定します。

本設定はランチャーまたはコントロールパネルから実行することができます。

注記： SP-5B41 をご使用の場合は、コントロールパネルからの設定のみ可能です。

ランチャーからの設定

ランチャーの **Dual Display** アイコンをタッチし、表示方法を設定します。



コントロールパネルからの設定

SP5B40 の場合：コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → **Dual Display Setting**

SP5B41 の場合：コントロールパネル → デスクトップのカスタマイズ → ディスプレイ → **解像度の調整**

注記：

以下の注記は SP-5B40 のみに適用されます。

- **コントロールパネル → デスクトップのカスタマイズ → ディスプレイ → 解像度の調整**において、[複数のディスプレイ] を [表示画面を拡張する] に変更すると、実際に接続されていなくても DVI モニターがメインディスプレイに設定されてしまいます。表示方法を変更する場合は、必ずランチャーの **Dual Display** で行ってください。
- SP-5500WA(10.1型ワイドディスプレイ)およびSP-5600WA(12.1型ワイドディスプレイ)ご使用時に DVI モニターを接続した場合、クローンモード [表示画面を複製する] を選択することができません。DVI モニターを接続する場合は、拡張デスクトップ [表示画面を拡張する] にてご使用ください。
- DVI ポートに初めてモニターを接続し拡張デスクトップ設定に変更すると、DVI モニターに設定の変更を確認するダイアログボックスが表示される場合があります。DVI モニター側で設定の変更を有効にしてください。
- デュアルディスプレイ設定で、[デスクトップを DVI モニタのみに表示する] を使用することはできません。

UART 設定 (通信設定)

概要

COM1/COM2 の通信方式を設定します。

本設定はランチャーまたはコントロールパネルから実行することができます。

ランチャーからの設定

ランチャーの **UART** アイコンをタッチし、通信方式を設定します。

UART設定

COM1 COM2

RS232C Vcc / RI Vcc RI

RS422 / 485 2線 / 4線式 2線式 4線式

エコーキャンセル 有効 無効

ボーレート 115200 bps

ストップビット 1ビット

パリティビット なし

データ長 8ビット

OK キャンセル 適用

コントロールパネルからの設定

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → UART Setting

注記：

- アプリケーションにて COM1/COM2 ポートを使用する場合、HMI ランタイムで使用していないポートのみ使用可能です。また、本設定での通信設定は、アプリケーション上の通信設定に合わせる必要があります。
- 以下の注記は SP-5B40 のみに適用されます。
 - COM2 は制御信号の応答が大きく遅延する場合があります。リアルタイム性が必要な制御には使用できません。制御信号の応答にリアルタイム性が必要な場合には COM1 を使用してください。

システムバージョン情報

概要

製品のファームウェアや BIOS バージョン、OS バージョンが表示されます。

ランチャーでの表示

ランチャーの **System Version** アイコンをタッチし、情報を表示します。

SP-5B40	
BIOS	2.0
OS Base	5.00
OS Patch	None
SP-5700TP	
Firmware	1.32.90.0051
Boot Loader	1.30.90.0000
<input type="button" value="OK"/>	

タスク切り替え設定

概要

画面右上の長押しでタスクリストウィンドウを表示し、タスクの切り替えを行います。



注記：画面右上の長押しでのタスクリストウィンドウ表示は、拡張デスクトップ設定時に接続されている DVI モニター上でも有効です。

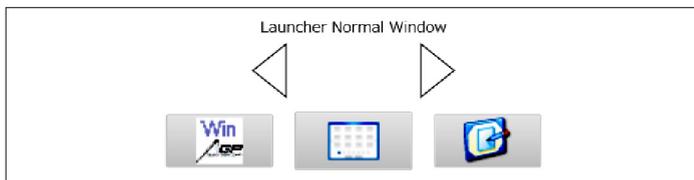
タスクリストウィンドウ

タスク切り替えウィンドウの**タスクボタン**、または画面右上の長押しで**タスク切り替え**ウィンドウが表示されます。

タスクリストウィンドウには現在実行中のタスクが表示されます。

表示したいタスクを選択して切り替えます。

注記：長押しする位置は画面 4 隅のいずれかを指定できます (36 ページ参照)。



タスク切り替え設定

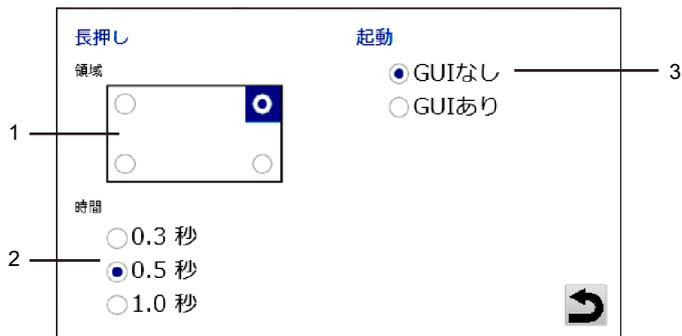
ランチャーの**タスク切り替え**アイコンをタッチし、**タスク切り替え**ウィンドウを表示します。



番号	名称	内容
1	タスクボタン	タスクリストウィンドウを表示します。
2	設定ボタン	設定ウィンドウを表示します。設定ウィンドウではタスク切り替えの動作設定を行います。
3	非表示ボタン	タスク切り替えウィンドウを非表示にします。

タスク切り替え設定ウィンドウ

タスク切り替えの動作設定を行います。



番号	名称	内容
1	長押し領域	長押しする領域を画面4隅のいずれかから選択します。
2	長押し時間	選択した長押し領域をタッチしたまま押し続け、完全な円が表示されるまでの時間を設定します。
3	起動	GUIなし：ランチャー起動時に タスク切り替え が表示されません。 GUIあり：ランチャー起動時に タスク切り替え が表示されます。

その他の環境設定

概要

その他の環境設定はコントロールパネルで行います。

ネットワーク設定

コントロールパネル → ネットワークとインターネット → ネットワークと共有センター

言語設定

コントロールパネル → 時計、言語、および地域 → 地域と言語

時計設定

コントロールパネル → 時計、言語、および地域 → 日付と時刻

注記：本製品に搭載されている RTC は外部 RTC のため、時計設定変更後はオペレーティングシステムの再起動もしくはシャットダウンを行ってください。

オーディオ / スピーカー設定

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → サウンド

その他制限事項

概要

本製品の工場出荷時には、HMI として最適なパフォーマンスを維持するための設定を行っています。設定を変更すると、HMI としてのパフォーマンスを維持できなくなるものもありますのでご注意ください。

以下の制限事項をお読みいただき、適切な環境の下、本製品をご使用ください。

ユーザーアカウント

出荷時のログインアカウント [Administrator] からログインアカウントを変更した場合、本製品使用中に「ユーザーアカウント制御」のダイアログボックスが表示される場合があります。「ユーザーアカウント制御」のダイアログボックス操作によっては、本製品が正しく動作しない場合がありますので、Administrator 以外のアカウントを使用しないでください。

テーマ設定 (SP-5B40 のみ)

コントロールパネル → デスクトップのカスタマイズ → 個人設定のテーマ設定にて、テーマの設定変更を無効にしています。テーマは初期設定のままご使用ください。

SP-5400WA(7.0 型ワイドディスプレイ) での Windows® 標準ダイアログボックス表示

SP-5400WA の解像度は WVGA(800 x 480) のため、一部の Windows® 標準ダイアログボックスにおいて、OK/ キャンセル/ 適用のボタンの表示が見えず、タッチできない場合があります。

そのような場合は、DVI モニターを拡張デスクトップとして接続し、DVI モニターにダイアログボックスを表示して操作してください。

SP-5500TP(10.4 型ディスプレイ) の解像度 (SP-5B40 のみ)

SP-5500TP の解像度は SVGA(800 x 600) ですが、コントロールパネル → デスクトップのカスタマイズ → ディスプレイ → 解像度の調整において、推奨解像度が XGA(1024 x 768) と表示されます。解像度を XGA(1024 x 768) に設定した場合、縮小により表示が不鮮明になる場合があります。

通常は、工場出荷時設定の SVGA(800 x 600) で使用してください。

SP-5B41 での VGA (640 x 480) 対応

SP-5B41 をご使用の場合は、以下の手順で解像度を VGA (640 x 480) にすることが可能です。

1. コントロールパネル → デスクトップのカスタマイズ → ディスプレイ → 解像度の調整で詳細設定をタッチ。
2. アダプタータブを開き、モードの一覧をタッチ
3. VGA (640 x 480) のモードを選択。
4. OK をタッチ。

本手順で VGA (640 x 480) にした場合、一部の Windows® 標準ダイアログボックスにおいて OK/ キャンセル/ 適用のボタンの表示が見えず、タッチできない場合があります。そのような場合は、DVI モニターを拡張デスクトップとして接続し、DVI モニターにダイアログボックスを表示して操作してください。

注記：HMI ランタイムは VGA に対応していません。

拡張デスクトップ設定時の回転 (SP-5B40 のみ)

DVI モニターを拡張デスクトップとして接続している場合は、**グラフィックオプションの回転**で [標準表示にする] 以外は設定できません。

イーサネットインターフェイス (Ethernet2) での Jumbo frames 受信 (SP-5B40 のみ)

Jumbo frames を Disable に設定した状態で Jumbo frames を受信すると BSOD (Blue Screen of Death: ブルースクリーン) が発生するため、Ethernet2 の Jumbo frames は工場出荷時に Enable に設定されています。Jumbo frames を Disable に設定する場合は、ネットワーク回線に Jumbo frames が流れないように周辺機器を設定してください。

タッチ長押し時の右クリック機能

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → ペンとタッチ → タッチタブ → プレス アンド ホールド → 設定において、[プレス アンド ホールドを右クリックとして認識する] を工場出荷時は無効に設定しています。

本設定を有効にした場合、タッチ長押しによる**タスク切り替え**が正常に動作しませんので、無効のままご使用ください。

リムーバブルメディアの自動再生

リムーバブルメディアの自動再生を有効にすることはできません。

デバイスマネージャー

コントロールパネル → システムとセキュリティ → システム → デバイスマネージャーでは、本製品に特化した設定を行っています。工場出荷時の設定から変更しないでください。

サービス設定

コントロールパネル → システムとセキュリティ → 管理ツール → サービスにおいて、本製品に特化した設定を行っています。工場出荷時の設定から変更しないでください。

タスクスケジューラ設定

コントロールパネル → システムとセキュリティ → 管理ツール → タスクスケジューラにおいて、本製品に特化した設定を行っています。工場出荷時の設定から変更しないでください。

ソフトウェアキーボード

ソフトウェアキーボードはメインディスプレイでのみ使用可能です。これは Windows® 7 の標準仕様です。

ランチャーからソフトウェアキーボードを起動させたい場合は、**タスク切り替え**を使用してランチャーをメインディスプレイに表示させてから起動させてください。

スクリーンセーバー

コントロールパネル → ハードウェアとサウンド → 電源オプション → ディスプレイの電源を切る時間の指定 → ディスプレイの電源を切るが設定されており、なおかつスクリーンセーバーも設定されている場合、ディスプレイの電源がオフの状態ですべてタッチ入力した際、誤操作が発生する可能性があります。

そのため、**ディスプレイの電源を切る**を使用する場合、コントロールパネル → デスクトップのカスタマイズ → 個人設定 → スクリーンセーバーにて、スクリーンセーバーの設定を [なし] にしてください。

第 4 章

システム動作

概要

本章では、本製品のシステム動作について説明します。

本章について

本章には次の項目が含まれています。

項目	参照ページ
Power	42
Eject	43
Write Filter	44
HORM	45
Shell	47

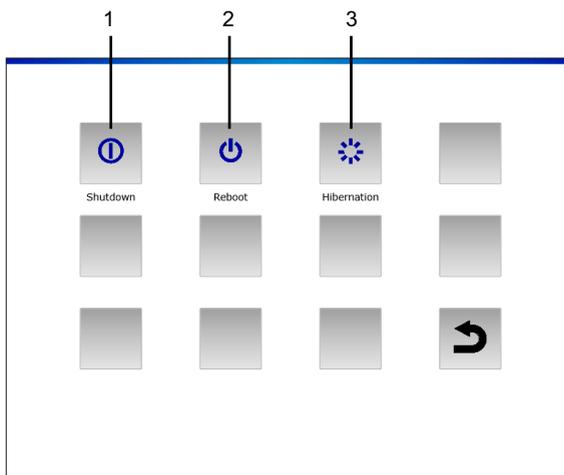
Power

概要

本製品の電源を操作します。

Power ウィンドウ

ランチャーの **Power** アイコンをタッチし、電源の動作を選択します。



番号	名称	内容
1	Shutdown	オペレーティングシステムをシャットダウンします。
2	Reboot	オペレーティングシステムを再起動します。
3	Hibernation	オペレーティングシステムを休止状態にします。

注記：

- **HORM** 有効中に **Hibernation** を実行した場合、**HORM** で保存したシステム状態は上書きされ、以降は **Hibernation** で保存されたシステム状態で起動します。また、その後 **HORM** 有効のまま電源断しても、**Hibernation** で保存したシステム状態で起動しますのでご注意ください。
- **コントロールパネル** → **ハードウェアとサウンド** → **電源オプション** → **電源プランの選択** → **お気に入りのプラン**は、出荷時から [高パフォーマンス] に設定されています。設定を変更した場合、パフォーマンスに影響する場合がありますので、[高パフォーマンス] のままご使用ください。

Eject

概要

ストレージデバイス (CFast カードを除く) を取り外すための処理を行います。

注記

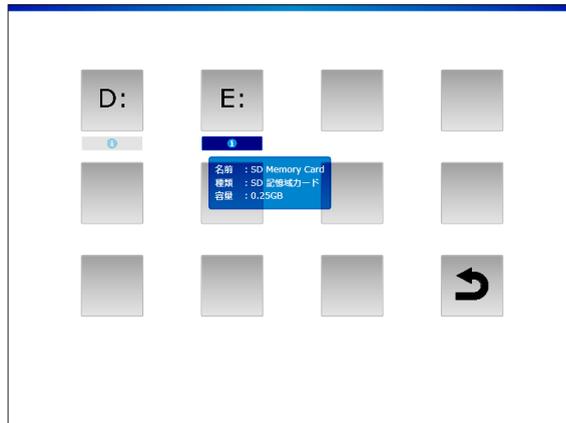
データの損失

- データ用ストレージデバイスにアクセス中は、本製品の電源を切ったり、リセットしたり、ストレージデバイスの抜き差しは行わないでください。
- 本製品からストレージデバイス (CFast カードを除く) を取り外す際は、必ずランチャーの Eject または Windows® のハードウェア取り外しツールを使用して安全に取り外してください。
- CFast カードの抜き差しを行う際には、本製品の電源を切ってください。

上記の指示に従わないと、物的損害を負う可能性があります。

Eject ウィンドウ

ランチャーの Eject アイコンをタッチし、取り出したいストレージデバイスを選択します。



注記 : 各ストレージデバイスのドライブ名は挿入のタイミングによって異なります。ドライブの割り当てを確認のうえ取り外してください。

Write Filter

概要

システム用 CFast カードを書き込みアクセスから保護するための機能です。

ライトフィルターを有効にすることにより、システム用 CFast カードの破損や書き込み回数による寿命の低下を防ぐことができます。また、電源断が発生した際のシステムデータ損傷のリスクを軽減します。シャットダウン操作を行わずに電源を切る可能性がある場合は、この機能を有効にしてください。

注記

データの損失

ライトフィルターで保護されていないストレージデバイスへの書き込み中は、電源を切らないでください。

上記の指示に従わないと、物的損害を負う可能性があります。

注記：

- 工場出荷時の設定は「無効」となっています。
- システム用 CFast カードへの書き込み回数削減のため、通常はライトフィルターを有効にしてください。
- 各種設定（ランチャーやコントロールパネルでの各種設定、ドライバーの追加、レジストリー変更、アプリケーションのインストール、HMI ランタイムへの画面データ転送等）を変更する際は、必ずライトフィルターを無効にしてください。ライトフィルターが有効の場合、設定情報はオペレーティングシステム再起動時にすべて破棄されてしまいます。設定の変更後、ライトフィルターを有効に戻すことをおすすめします。

ライトフィルターウィンドウ

ランチャーの **Write Filter** アイコンをタッチし、有効 / 無効を切り替えます。無効から有効に切り替える場合、自動的に再起動します。



HORM

概要

本製品の起動時間を短縮させる機能です。

HORM を有効にした時点でのシステム状態を保存することで、電源断実行後も本製品起動時に同じシステム状態で復帰させることが可能です。

HORM 有効時はライトフィルターも有効にする必要があります。

注記

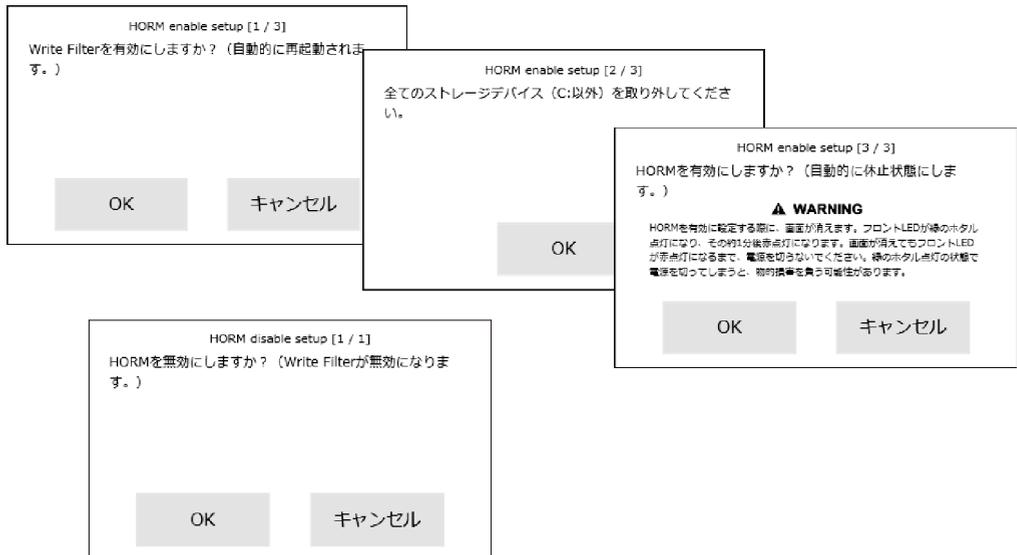
データの損失

ライトフィルターで保護されていないストレージデバイスへの書き込み中は、電源を切らないでください。

上記の指示に従わないと、物的損害を負う可能性があります。

HORM ウィンドウ

ランチャーの **HORM** アイコンをタッチし、有効/無効を切り替えます。



注記：

- 本機能を有効にする前に、挿入されているストレージデバイスは取り出してください（43ページ参照）。
- ライトフィルターが無効の状態では **HORM** アイコンをタッチすると、ライトフィルターを有効にするためのダイアログボックスが出てきます。**OK** をタッチすると本製品が再起動しますが、HORM はまだ有効になっていません。再起動後、再度 **HORM** アイコンをタッチし、HORM を有効にしてください。

- ハイバネーション直後および HORM 有効時は正常にシステムのバックアップおよびリカバリーができません。システムのバックアップおよびリカバリーは、一度シャットダウンを行う、または HORM を無効にしてから行ってください。(システムのバックアップおよびリカバリーについては、弊社ウェブサイト (<https://www.pro-face.com/trans/ja/manual/1001.html>) をご覧ください。市販のシステムバックアップ用ソフトウェアを使用することも可能です。)
- ハイバネーション状態や HORM が有効の状態のシステムが格納されているシステム用 CFast カードを別のオープンボックスで使用しないでください。

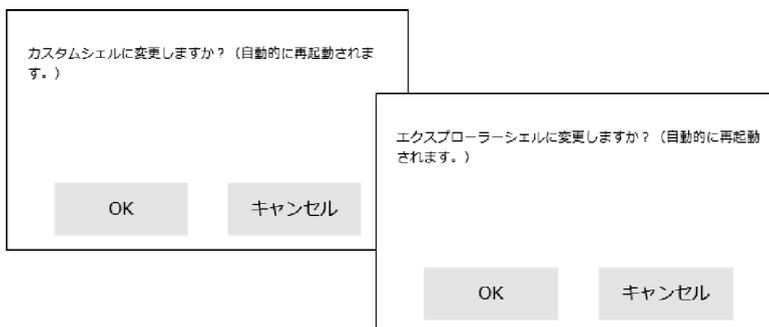
Shell

概要

エクスプローラーシェルとカスタムシェルを切り替えます。

Shell ウィンドウ

ランチャーの **Shell** アイコンをタッチし、ランチャーでエクスプローラーシェルとカスタムシェルを切り替えます。切り替え後、再起動します。



カスタムシェルに設定した場合：Windows® デスクトップは表示されません。

エクスプローラーシェルに設定した場合：Windows® デスクトップは表示されます。

注記：

- アプリケーションのインストールは、エクスプローラーシェルで行ってください。
- ランチャー表示中は、エクスプローラーシェルで表示される機能 (Windows® デスクトップ、スタートメニュー、タスクバー等) は使用できません。

